

## 051 ヤハウエ

יהוה

旧約聖書における古代イスラエルの唯一神の名である。

この名はヘブライ語の4つの子音文字で構成され、神聖四文字（テトラグラマトン）と呼ばれる。神聖四文字とこれを「アドナイ」（わが主）と読み替えるための母音記号とを組み合わせた字訳に基づいて「Jehovah（イエホヴァ）」とも転写され、日本語ではエホヴァ、エホバとも表記される（ただし「Jehova」の表記は遅くとも14世紀には使われていた）。

近代、これを「Yahweh（ヤハウエ）」と読むのが主流となっている。

もとはユダヤの一部族神であったが、ユダヤ教が成立して、民族的な唯一神となった。

なお、キリスト教の神も同じくヤハウエであり、またイスラーム教の唯一神アッラー（もともとアッラーとは「神」を意味する普通名詞）も本来は同じ神を意味していた。

ユダヤ教では、ヘブライ人（ユダヤ人）たちがモーセに率いられて、出エジプトを行い、カナンの地に戻る途中、シナイ山でヤハウエから十戒を授けられたが、これを神との契約と考え、その契約を守ることによって救済されると信じ、ユダヤ教の教義が成立した。その十戒の中に、偶像を造ってはいけないとされ、この偶像禁止の教えは、ユダヤ教からキリスト教に引き継がれた。

### 【参考】

「神」という普通名詞は、ヘブライ語で「エル」といいます。これは単数形で、複数形は「エロヒム」です。